

平成 23 年度第 1 回

## 恵那市市民評価委員会議事録（要約版）

日時：平成 23 年 6 月 17 日（金）10 時 00 分～

場所：恵那市役所 4F 第 2 委員会室

---

1. 委嘱書の交付
2. 自己紹介
3. 市長あいさつ
4. 委員長・副委員長の互選
5. 委員長・副委員長あいさつ
6. 会議の公開・会議録の公表について（確認）
7. 議事
  - ①恵那市市民評価委員会について
  - ②恵那市の行政評価について
  - ③評価事業の選定について
8. その他

出席者（敬称略）

【委員】市川美彦 大橋由美 柴英子 田口譲 平野未帆 牧野香 宮地政臣 三輪哲司 山田基

【オブザーバー】竹内泰夫

【欠席者】柘植麻美

【執行部】市長 可知義明

【事務局】企画部長 小嶋初夫 企画課長 西尾昌之 企画課係長 福平栄久 企画課主査 梶村一之

---

## 1. 委嘱書の交付

〔 市長より各委員へ委嘱書を交付 〕

## 2. 自己紹介

〔 各自自己紹介 〕

## 3. 市長あいさつ

■市長 昨年の10月に恵那市では初めて試行という形で外部評価を行っていただいた。委員の皆さんにはいろいろと外から圧力があり迷惑をかけたが、それだけ市民の注目が高いということ。今回本格的に外部評価に取り組んでいただくが、自ら評価事業を選んでいただき、評価をしていただく。今まで行政は事業を検証することはなかったが、PDCAサイクルをしっかりと回すということで今回お願いした。内部でも副市長を委員長とした内部組織があるが、その評価が適正であるかを市民の目からしっかり見ていただきたい。膨大な事務事業があるが、その中から是非評価したい事業を10事業ほど選定していただきたい。その他、市では市民意識調査をしている。これは毎年行っていくが、市民の通信簿と言われている。行政がやっていることはなかなか見えないので評価を通じて明らかにしてほしい。昨年評価した事業では、市が直営で運営していることを知らなかった市民も多いのでは。そういったことを明らかにしたうえで、恵那市の中で必要なのか、市民と協働で取り組んでいくのに相応しいのかも含めて判断してほしい。恵那市の経営をどのようにしていくかたいへん重要な仕事なのでよろしくをお願いしたい。

## 4. 委員長・副委員長の互選

■事務局 要綱を見ていただくと委員長・副委員長は委員の互選ということになっているが、意見があるか。

■委員 事務局案があればお願いしたい。

■事務局 それでは昨年外部評価試行委員会をやっていただいた委員にお願いしたい。委員長は引き続き市川美彦委員、副委員長は田口譲委員にお願いしたいが、よろしいか。

〔異議なし〕

## 5. 委員長・副委員長あいさつ

■委員長 スケジュールを見ると、10月頃までに8回ほどの会議を行う予定である。お忙しい方もいるようだが、事務局の示す日程に沿ってこの会の目的が達成できるようご協力いただくことお願いしてあいさつとさせていただきます。

■副委員長 昨年試行委員会に出席させていただいて、マイクが恐ろしく感じたがだんだん慣れ、割と気楽に発言をさせてもらった。副委員長という大役ではあるが皆さんの協力を得て、会議を行っていくのでよろしくお願ひしたい。

## 6. 会議の公開・会議録の公表について（確認）

〔異議なし〕

## 7. 議事

### ①市民評価委員会について

〔事務局から資料に基づき説明〕

■委員長 事務局から昨年行った試行委員会の内容も含めて、市民評価委員会の説明をしていただいた。初めての方も半数近く見えるので、十分意見交換をすることが重要。何か意見はないか。マスコミの方もお見えであるが、試行委員会のために国の事業仕分けと類似しているということで、「事業仕分けの恵那市版」と発表されたが、市長のあいさつ、事務局の説明から考えると、本委員会の趣旨は行政内部で行っている評価を市民目線から見たらどうなのかということ。委員自らが評価事業を選定し、担当者から説明を聞き、必要に応じて現地視察を行う。その上で各自評価を行い、委員会で議論し結論を導き出す。会議が終わるまでも結構なので、理解できないことは質問をしてほしい。

### ②恵那市の行政評価について

〔事務局から資料に基づき説明〕

■委員 評価については予算を含めた評価なのか。

■事務局 評価は予算数値、決算数値を示させていただき、評価を行っていただく。

### ③評価事業の選定について

〔事務局から資料に基づき説明〕

■委員長 総合計画の体系では、大きな6本の目標。その次 31 施策。さらにその次に約600 事業がある。今年の試行委員会の提言では、行政が用意した事業を評価するより、委員自らが委員会の中で選んだ事業を評価したほうがよいとある。次の会議で10 事業選択し、直ちに事業評価の事務作業に入っていくということ。事業名と概要が示されているが、中にはスムーズに進んでいる事業もあるし、長年うまくいってない事業もあり、その原因を考えることも大切である。委員の皆さまには十分内容を見ていただいて、3 事業選んでいただき次回の会議で10 事業選定していく。意見があればお願ひする。

■委員 600 近くある中から3つ選ぶというのはたいへん乱暴な話ではないか。

■委員長 行政が選んだ事業を評価するというのは、行政側に主導された結果になるということで、試行委員会の提言では委員が自ら事業を選択することになった。この程度の資料で事業を理解して選択するのは少し荒っぽいのではないかという意見であったが事務局としてどうか。

■事務局 これだけでは予算も掲載されておらず荒っぽい資料である。そこで資料の外部評価試行委員会の提言書の16ページを見ていただくと、事務事業成果表といって1事業ずつの詳細を載せたシートがある。時間があればホームページに全事業公表しているのを見ていただいても良いし、印刷して配ってもよいが膨大な量になるので本日は用意していない。事業概要や対象、目的と成果、手段と成果指標や年度ごとの目標値も掲載している。また、事務事業のコストとして予算上の事業費の他に職員人件費、その他として減価償却費などが含まれており、予算書に表れない本来の総事業費が示されている。また利用者1人当たりのコストまで計算されている。会議まで時間があるので皆さまには大変お忙しいところ申し訳ないが3事業選んでいただきたい。

■委員 表に少なくとも総事業費まで載せていただくとありがたい。

■事務局 載せることは可能。

■委員 事務事業評価表をホームページから見たが、資料と順番が違うので見方がわからない。内容についても市民から見るとわかりにくい。見方を教えてほしいときは誰に聞けばよいのか。

■事務局 事務局に聞いていただければ説明させていただきます。

■委員 例えばまちづくり事業は岩村・山岡・明智それぞれ主管課が別れている。効率的に行うには振興事務所でなくて建設部が主管するべきでないか。

■事務局 まちづくり事業について、これは国の社会資本整備総合交付金を40%利用できる事業。岩村・山岡・明智・大井町中心部で事業を行っているが、大井町中心部以外それぞれの振興事務所が主管課になっている。恵那市は合併以来地域自治区を作成し、地域協議会という組織をおいて、地域のまちづくりを地域の皆さんと考えて行っている。その中で国の社会資本整備総合交付金をどのように使うか提案し、それぞれの地域で話し合って何をやるか決めている。地域自治区の事務局は振興事務所なので成果表では振興事務所が主管課となっている。しかし、市全体の事業であるので、建設部のまちづくり事業課が総括的に事業を行っている。内容はどちらに聞いていただいても答えられるようになっている。

■委員長 事業の選定について案を出させていただく。まず561事業の中から委員が議論をしたいものを3つ選び、事務局に提出する。事務局は委員より提出された事業について事務事業成果表を委員に送付する。送られてきた事務事業成果表を基に各委員は考えをまとめるのはどうか。

- 委員 これからすぐ選定にかかるということか。
- 事務局 選定に必要な資料があれば、送付させていただく。
- 委員長 全ての事業の資料を送付してもらっても、膨大なものになってしまう。まずは委員がピックアップしたものについて資料を送付してもらったほうがよいのでは。
- 委員 資料の送付にはメールを活用したほうがよいのでは。資料を全て送付してもらおうのでなく、必要な部分をメールで送付してもらえるといい。
- 委員長 全員が共通してできる案を示させていただいた。
- 委員 他の自治体ではどのように選定しているのか。どういう基準で選定をしたらいいのか。全ての事業をみて選ぶのか。
- 委員長 選定の基準は定められていない。それぞれの委員が関心のある事業を選んでもらえればよい。自分が生活する中で一番関心があることを3つ選んでいただく。
- 事務局 他の自治体でどのように選定しているかということ、1,000 を超えるような多くの事務事業がある自治体もあり、選定には苦勞している。中津川市で外部評価を行ったときは、全事業の評価を行っている。会議が毎週あり、委員の方は大変だったと聞いている。また、恵那市のように数事業選ぶ自治体もある。選び方は委員長が言われたように委員の興味がある事業を選ぶ場合や、行政が提案する場合もある。今回は全事業行うわけにはいかないが、毎年少しずつやっていけば、全ての事業を行うことになる。どの事業を選んで早くか遅いかの違いであり、委員の方が代わればまた違った視点で選定してもらおうことになる。
- 委員 極端なことを言うと、何でもよいということになってしまうのでは。評価の必要のない事業を評価してしまうことになるので、委員の興味のある事業をいくつか出して、次回決定するというところでどうか。
- 委員長 ある施策に集中するのでなくバランスよく10事業最終的に選んでいただいて、評価を行うことを念頭においていただきたい。健康は大切だが、全て健康に関する事業の評価にならないように6主要施策からバランスよく選定する。委員は各3事業選んでいただいて、それを主要施策ごとに検討し、次回評価事業を決定したい。
- 委員 自分が選ぶ3つの事業は6主要施策のバランスを考えなくてよいか。
- 委員長 そういうことでお願いしたい。
- 委員 試行委員会ときは各部より事業を選んだ。今回は主要施策ごとになっていて、各部がばらばらに配置されていて、各部のバランスがわからない。各部ごとに考えたほうがよいのでは。
- 事務局 行政評価の考え方では、各事業が施策においてどのような役割を持つかということが重要になる。そういった観点から今回は部をまたいだ6主要施策ごとに事業を並べた。事業を選定するときはこの6主要施策ごとに検討すれば必然的に各部のバランスもと

れる。

■委員長 評価事業の選定につきましてはたいへんお忙しいところではあるが、家に持ち帰っていただいて関心度が高いものを3事業選んでいただく。次回の委員会の中で、10事業選びきれない場合は新たに追加するなどして10事業の選定を行いたい。わからないことは事務局に聞いていただくようお願いしたい。全般を通しての意見があればお願いしたい。

■事務局 委員の方からの事業が全部集まった時点で成果表を皆さんに送付させていただく。それまでに事業の詳細を見たい方はホームページで確認してほしい。

## 8. その他

■委員 9回委員会があるが、できるだけ多くの委員が出席できる日にしてほしい。

■事務局 皆さんの都合を本日伺い、次回の日程を決めたい。

[第2回 平成23年7月5日(火) 午後1時30分～]

[ 閉 会 ]